

韮崎市立病院院内保育所スマイル 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を下記の通り公表いたします。

また、自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2024年1月4日（木）～2024年1月31日（水）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2024年4月1日（月）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	「おもいっきり遊ぶ。おもいっきり学ぶ。」病児は限られた環境の中で、体調を考慮しながら、病気の時も好きな遊びを見つけて安心して過ごす環境作りに努めた。
子どもの発達援助	カンファレンスを通して、個々の特性の理解に努めた。情報を共有し適切な遊びを見つけ、健やかな発達のための一助を担った。
保護者に対する支援	保育士、看護師それぞれの立場から、保護者様が抱える病状や発達に対する不安や悩みを受け止めて、共感に努めた。
保育を支える組織的基盤	チーム保育を目指し、「報連相」を心がけ、風通しの良い保育と互いの不足を補い合える人間関係の構築に努めた。

総評
<p>5月に、コロナが5類に移行され、病児病後児保育所も、コロナ前のお預かりに少しずつ戻り始めた。スマイルでは常にチーム保育を目指し、互いの得意分野は存分に発揮し、不足の部分は補い合いながらの運営を行ってきた。コロナ5類以降後は、保護者様の働き方も以前に近いように感じ、お子さんの体調不良時の預け先や子育てに悩みを抱えていらっしゃる様子が垣間見られるようになった。それらにつれ、「病児保育に携わる保育士や看護師がどんな支援が出来るのか」「今行っている保育でよいのか」と考えさせられることも多かった。今までとは違って、感染症に季節性が見られなくなり、多種多様な病名でのご利用も増えている。知識の習得はもちろん多様な保護者様のニーズにこたえられる保育士、看護師の力量が問われた1年であったと思う。</p>